



# 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

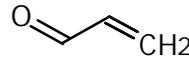
昭和化学株式会社  
 東京都中央区日本橋本町4-3-8  
 担当  
 TEL(03)3270-2701  
 FAX(03)3270-2720  
 緊急連絡 同上  
 改訂日 2019/10/09  
 SDS整理番号 01084252

製品等のコード : 0108-4252、0108-3232  
 製品等の名称 : アクロレイン,モノマー  
 推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)  
 アクリル酸、アクリル酸低級アルキルエステル、DL-メチオニン、  
 2-ヒドロキシアジプアルデヒド、1,2,6-ヘキサントリオール、リジン、  
 グルタルアルデヒド、アリルアルコールの中間原料、  
 除草剤、土壌殺菌剤、軟体動物駆除剤、燻蒸剤、医薬、繊維処理剤、香料、  
 合成樹脂、可塑剤、染料 など



## 2. 危険有害性の要約



### GHS分類

物理化学的危険性  
 引火性液体 : 区分2  
 自然発火性液体 : 区分外

健康に対する有害性  
 急性毒性(経口) : 区分2  
 急性毒性(経皮) : 区分3  
 急性毒性(吸入:蒸気) : 区分1  
 皮膚腐食性・刺激性 : 区分1A  
 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分1  
 特定標的臓器・全身毒性 : 区分1(呼吸器、神経系、肝臓)  
 (単回ばく露) : 区分3(麻酔作用)  
 特定標的臓器・全身毒性 : 区分1(呼吸器、肝臓、腎臓)  
 (反復ばく露)

環境に対する有害性  
 水生環境急性有害性 : 区分1  
 水生環境慢性有害性 : 区分1

注意喚起語 : 危険

### 危険有害性情報

引火性の高い液体および蒸気  
 飲み込むと生命に危険(経口)  
 皮膚に接触すると有毒(経皮)  
 吸入すると生命に危険(蒸気)  
 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷  
 重篤な眼の損傷  
 呼吸器、神経系、肝臓の障害  
 眠気又はめまいのおそれ  
 長期又は反復暴露による呼吸器、肝臓、腎臓の障害  
 水生生物に非常に強い毒性  
 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。  
 容器を密閉しておくこと。  
 容器を接地すること、アースをとること。  
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。  
 火花を発生させない工具を使用すること。  
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
 ミスト、蒸気などを吸入しないこと。  
 取扱い後は、よく手を洗うこと。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。  
 環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせない。直ちに医師に連絡すること。  
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させ、直ちに医師に連絡する。  
 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。  
 皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。  
 眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。  
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。  
 気分が悪い時は医師に連絡すること。  
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。  
 漏出物を回収すること。

【保管】

日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	:	単一製品
化学名	:	アクロレイン,モノマー (別名) アクリルアルデヒド、アリルアルデヒド、プロペナル、 2-プロペナル、2-プロペン-1-オン、プロペン-3-オン (英名) Acrolein, monomer、Acryl aldehyde、Allylaldehyde、 Propenal、2-Propenal (TSCA名称)、2-Propene-1-one、 Propene-3-one、Acrylaldehyde (EC名称)
成分及び含有量	:	アクロレイン,モノマー、 96.0%以上 (安定剤として、ハイドロキノン0.3%程度を含有)
化学式及び構造式	:	C <sub>3</sub> H <sub>4</sub> O、 CH <sub>2</sub> :CHCHO、 構造式は上図参照(1ページ目参照)。
分子量	:	56.06
官報公示整理番号	:	(2)-521
化審法	:	公表化学物質(化審法番号を準用)
安衛法	:	
CAS No.	:	107-02-8
EC No.	:	203-453-4
危険有害成分	:	アクロレイン,モノマー ・労働安全衛生法 通知対象物 政令番号 8 表示対象物 政令番号 8 危険物・引火性の物 ・毒物劇物取締法 劇物「アクロレイン」 ・化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) 1-10(90%) ・消防法 危険物第4類引火性液体 第一石油類 非水溶性

4. 応急処置

吸入した場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、空気の新鮮な場所に移し、毛布等でおおって体を保温し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 呼吸困難又は呼吸が停止している時は、直ちに人工呼吸を行い、速やかに、医師の手当を受ける。 気分が悪くなった時は、医師の診察、手当を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 皮膚を速やかに多量の水と石鹸で洗う。

- 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。  
汚染された作業衣は作業場から出さない。  
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
- 目に入った場合 : 直ちに医師に連絡する。  
直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗淨すると、かえって目に障害を起すことがあるので注意する。
- 飲み込んだ場合 : まぶたを親指と人さし指で拵げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗淨する。  
次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗淨を続ける。  
眼の洗淨が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。  
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。  
眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診断を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状 : 直ちに医師に連絡する。  
口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。  
吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。  
直ちに、牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。  
牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。  
けいれんや意識混濁がある時又は意識がもうろうとしている時には吐かせてはいけない(窒息させたり、吐いた物が気管に入って肺炎になることがあるため)。  
意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。  
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
- 吸入した場合 : 咳、咽頭痛、息切れ、息苦しさ、頭痛、めまい、脱力感、吐き気。症状は遅れて現われることがある。  
皮膚に付着した場合 : 発赤、皮膚熱傷、痛み。  
眼に入った場合 : 痛み、発赤。  
飲み込んだ場合 : 腹痛、灼熱感。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。  
医師に対する特別な注意事項 : 安静と症状の医学的な経過観察が必要。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 粉末、二酸化炭素、泡消火剤、水噴霧など  
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。)  
特有の危険有害性 : 引火性が極めて高い。  
極めて燃え易いので、熱、火花、火炎で容易に発火する。  
引火点(-26 )以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。  
本製品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、屋内、屋外、下水溝などでの遠距離引火の可能性もある。  
加熱により容器が爆発するおそれがある。  
火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を遮断する。  
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。  
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。  
皮膚、眼など身体とのあらゆる接触を避ける。  
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。  
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。  
回収、中和 : 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で

- 廃棄処理する。  
 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる空容器に回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材  
 : 危険でなければ漏れを止める。  
 漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
- 二次災害の防止策  
 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。  
 周辺の発火源を速やかに取除く。  
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策  
 : 裸火禁止。  
 引火点(-26 )以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。  
 ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。  
 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。  
 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。  
 指定数量の1/5以上、1未満(少量危険物)の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。  
 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。  
 炎、火花または高温体との接触を避ける。  
 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。
- 局所排気・全体換気  
 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。  
 防爆型の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。  
 蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気する。
- 安全取扱い注意事項  
 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。  
 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。  
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避  
 : 炎、火花または高温体との接触を避ける。
- 保管
- 技術的対策  
 : 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。  
 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。  
 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。  
 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
- 保管条件  
 : 日光や高温多湿を避ける。  
 容器を密閉して換気の良い冷暗所(10 以下)に保管する。  
 一定の場所を定めて、施錠して保管する。  
 貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。  
 貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。  
 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質  
 : 強酸、強塩基、強酸化剤、過氧化物、酸素
- 容器包装材料  
 : ガラス、鉄ドラム、ステンレスなど

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度  
 : 未設定
- 許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)  
 : 日本産衛学会(2018年版) 0.1ppm 0.23mg/m3  
 A C G I H (2018年版) TLV-TWA 0.1ppm 0.23mg/m3  
 TLV-STEL 0.1ppm (Skin)
- 設備対策  
 : 防爆の電気・換気・照明機器を使用する。  
 静電気放電に対する予防措置を講ずる。  
 作業場には防ばく型の換気装置を設置し局所排気又は全体換気を行なう。  
 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
- 保護具
- 呼吸器の保護具  
 : 呼吸器保護具(有機ガス用防毒マスク)を着用する。
- 手の保護具  
 : 保護手袋(ネオプレン製、シリコン製など)を着用する。

- 眼の保護具 : 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。  
 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。  
 衛生対策 : 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
 取扱い後はよく手を洗う。  
 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態、形状、色など : 無色澄明な液体  
 臭い : 刺すような刺激臭  
 pH : 6.0(10%水溶液、25 )  
 融点 : -88  
 沸点 : 53  
 引火点 : -26 (密閉式)  
 爆発範囲 : 下限 2.8vol%、上限 31%  
 蒸気圧 : 29kPa (20 )  
 蒸気密度(空気 = 1.0) : 1.9  
 比重(密度) : 0.839~0.841 (20/4 )  
 溶解度 : 水に溶けやすい(20g/100mL、20 )  
 エタノール、ジエチルエーテルに溶ける。  
 オクタノール/水分係数 : logPow = -0.01  
 自然発火温度 : 234  
 分解温度 : データなし  
 粘度 : 0.35mPa・s(20 )  
 GHS分類  
 引火性液体 : ICSC(2004)による引火点は-26 (密閉式)、かつ沸点は53 であることから、区分2とした。  
 引火性の高い液体および蒸気(区分2)  
 自然発火性液体 : 常温の空気と接触しても自然発火しない(発火点234 (ICSC,2004))  
 ことから、区分外とした。

10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 常温常圧で化学変化を起こす。  
 爆発性過酸化物を生成することがある。  
 危険有害反応可能性 : 重合することがあり、火災、爆発の危険を伴う。  
 強酸、強塩基、強酸化剤と反応し、火災、爆発の危険性をもたらす。  
 避けるべき条件 : 熱、日光、裸火、スパーク、静電気。  
 アンモニア、アミン、苛性ソーダ等と混触したものは加熱により発火する。  
 酸素に触れると爆発物を生成する。  
 加熱により容器が爆発する。  
 混触危険物質 : 強酸、強塩基、強酸化剤、過酸化物、酸素  
 危険有害な分解生成物 : 火災時の燃焼により、有害ガス(一酸化炭素、二酸化炭素)を発生する。

11. 有害性情報

- 急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 42mg/kg (DFG0Tvol.16 (2001))から、区分2とした。  
 飲み込むと生命に危険(経口)(区分2)  
 経皮 ウサギ LD50 = 560mg/kg (ACGIH (7th, 2001)), 164mg/kg、238mg/kg、335mg/kg、562mg/kg、1022mg/kg (EU-RAR No.7 (2001))に基づき、計算式を適用して得られた LD50=271mg/kg から区分3とした。  
 皮膚に接触すると有毒(経皮)(区分3)  
 吸入(気体)分類対象外。(GHS定義における液体であるため)  
 吸入(蒸気)ラット LC50 0.018mg/L (4時間)(EHC 127 (1991)), 0.065 mg/L(1時間)(EU-RAR No.7 (2001)), 20.8. Mg/L(4時間)(EHC 127 (1991))に基づき、計算式を適用してLC50(4時間換算値)の7.9ppmが得られた。  
 飽和蒸気圧274mmHg(25 ) [換算値 36500Pa(25 )](HSDB(2005))における飽和蒸気圧濃度は361000ppmである。今回得られたLC50は、飽和蒸気圧濃度の90%より低い濃度であるため、「ミストがほとんど混在しない蒸気」として、ppm濃度基準値で区分1とした。  
 吸入すると生命に危険(蒸気)(区分1)  
 吸入(粉じん、ミスト)データがないため分類できない。  
 皮膚腐食性・刺激性 : ヒトへの健康影響のデータ (EU-RAR No.7 (2001))「水疱形成を伴う重篤な浮腫、紅斑、10%液の適用48 時間後の生検においては、全被験者で水疱、壊死、炎症性細胞浸潤や乳頭層の浮腫がみられた」、及びウサギを

	用いた皮膚刺激性試験の結果(CERI・NITE有害性評価書 No.66 (2005)、EU-RAR No.7 (2001)、CICAD No.43 (2002))から、「腐食性を有する」と考えられるため、区分1Aとした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷(区分1A) ウサギを用いた眼刺激性試験の結果(CERI・NITE有害性評価書 No.66 (2005)、EU-RAR No.7 (2001))、及び、皮膚腐食/刺激性にて、区分1として いることから、「眼に対する非可逆的作用を有する」と考えられるため、区分1とした。
呼吸器感受性と皮膚感受性	重篤な眼の損傷(区分1) 呼吸器感受性:データがないため、分類できない。 皮膚感受性:モルモットを用いた複数の皮膚感受性試験結果(EU-RAR No.7 (2001))「陰性」から、区分外とした。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。 CERI・NITE有害性評価書 No.66 (2005)の記述から、経世代変異原性試験(優性致死試験)で陰性、生殖細胞in vivo変異原性試験なし、体細胞in vivo変異原性試験(染色体異常試験)で陰性であった。
発がん性	データ不足のため分類できない。 IARC (1995)でgroup 3、ACGIH (2001)でA4に分類されている。
生殖毒性	CERI・NITE有害性評価書 No.66 (2005)、CERIハザードデータ集(2000)、環境省環境リスク評価第3巻(2004)の記述から、経口投与では影響がないことから区分外とした。
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	ヒトについては、「右気管支の狭窄や気管上部の水腫や出血斑、慢性気管支炎、肺気腫」(CERI・NITE有害性評価書 No.66 (2005)) 実験動物については、「歩行異常、痙攣及び死亡」(CERIハザードデータ集 96-46 (2000))、「呼吸器刺激性、中等度の麻酔作用、ただし、数時間で回復」(ACGIH (7th, 2001))、「肝細胞の微小空胞を伴う好酸性変性」(CERI・NITE有害性評価書 No.66 (2005))等の記述から呼吸器、神経系、肝臓が標的臓器と考えられ、麻酔作用がみられた。 以上より、分類は区分1(呼吸器、神経系、肝臓)、区分3(麻酔作用)とした。
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)	呼吸器、神経系、肝臓の障害(区分1) 眠気又はめまいのおそれ(区分3) 実験動物について、「慢性肺炎、肺気腫、肺、肝臓及び腎臓の炎症、鼻腔の扁平上皮化生、喉頭の扁平上皮化生あるいは上皮過形成、気管支、細気管支及び肺胞の炎症」(CERI・NITE有害性評価書 No.66 (2005))等の記述があることから、呼吸器、肝臓、腎臓が標的臓器と考えられた。 以上より、分類は区分1(呼吸器、肝臓、腎臓)とした。
吸引性呼吸器有害性	長期又は反復暴露による呼吸器、肝臓、腎臓の障害(区分1) データがないため分類できない。

12.環境影響情報

水生環境急性有害性	: 魚類(ファットヘッドミノー)の96時間LC50=14 µg/L(環境省リスク評価第2巻、2003)他から、区分1とした。
水生環境慢性有害性	: 水生生物に非常に強い毒性(区分1) 急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いと推定されるものの(log Kow=-0.01 (PHYSPROP Database, 2005))、急速分解性がない(TOCによる分解度:0%(既存化学物質安全性点検データ))ことから、区分1とした。 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性(区分1)
オゾン層への有害性	: 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物	: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 (参考)イ. 燃焼法 ケイ藻土等に吸収させて開放型の焼却炉で焼却する。 可燃性溶剤(アセトン、ベンゼン等)に溶かし焼却炉の火室へ噴霧し焼却する。 ロ. 活性汚泥法
-------	---

酸化法の方法で処理した後、過剰の次亜塩素酸をチオ硫酸ナトリウム水溶液で分解し、さらに活性汚泥法にかける。  
アルカリ水溶液で重合沈澱させた後、上澄液を多量の水で希釈し、さらに活性汚泥法にかける。  
多量の水で希釈した後、さらに活性汚泥法にかける。  
過剰の酸性亜硫酸ナトリウム水溶液に混合した後、次亜塩素酸塩水溶液で分解し多量の水で希釈して流す。

汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 131P (P: 熱や不純物により爆発的に重合を起こす)

国際規則  
 国連番号 : 1092  
 国連品名 : アクリロレイン (安定剤入りのもの)  
 国連分類 : クラス6.1 (毒物)、副次危険3 (引火性液体)  
 容器等級 :  
 海洋汚染物質 : Yes (該当)

国内規制

陸上規制情報 (消防法、毒劇法、道路法の規定に従う)  
 海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)  
 国連番号 : 1092  
 品名 : アクリロレイン (安定剤入りのもの)  
 クラス : 6.1 (毒物類、毒物)  
 副次危険 : 3 (引火性液体)  
 容器等級 : I  
 海洋汚染物質 : 該当  
 少量危険物許容量 : -

航空規制情報 : 積載禁止

特別の安全対策 : 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。  
 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。  
 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。  
 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れののないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。  
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
 重量物を上積みしない。  
 車輛等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (政令番号 第8号「アクリロレイン」、対象重量%は 1)  
 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (政令番号 第8号「アクリロレイン」、対象重量%は 1) (別表第9)  
 化審法 : 危険物・引火性の物 (施行令、別表第一の4)  
 優先評価化学物質の取り消し (官報公示日: 2017/03/30) No.113「アクリロレイン」  
 旧第二種監視化学物質 No.789 (官報公示日: 2004/07/02)  
 旧第三種監視化学物質 No.171 (官報公示日: 2010/03/19)  
 消防法 : 危険物第4類引火性液体、第1石油類 (非水溶性) 指定数量200L、危険等級  
 毒物及び劇物取締法 : 劇物「アクリロレイン」(法律別表第2の2)、包装等級  
 化学物質管理促進法 (PRTR法) : ・種 別 「第1種指定化学物質」  
 ・政令番号 「1-10」  
 ・政令名称 「アクリロレイン」  
 船舶安全法 (危規則) : 毒物類・毒物  
 航空法 : 積載禁止

- 大気汚染防止法 : 特定物質(政令番号:政令第10条第11号)  
 有害大気汚染物質(政令番号:中環審第9次答申の7)
- 水質汚濁防止法 : 生活環境項目(施行令第3条第1項)  
 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」  
 [排水基準]160mg/L以下(日間平均120mg/L以下)  
 (注)排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合は  
 それに従うこと。
- 輸出貿易管理令 : 別表第1の16項(キャッチオール規制) 第29類 有機化学品  
 HSコード(輸出統計品目番号、2019年4月1日版):2912.19-000  
 「非環式アルデヒド(他の酸素官能基を有しないもの  
 に限る。)-その他のもの」

16. その他の情報

(注)本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項:

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には  
 細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し  
 労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、  
 紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献:

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH	CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点においての知見によるものですが、必ずしも十分では  
 ありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意  
 して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成  
 しています。